OBD検査

名古屋に試験導入

エス・障診断した。車両取判断しツール場で検業他社

「OBD検査」の専用コーナーを開催する。同コーナーは見込む。ル「DSTS」は、協会（JAA表理事）デンソーの量の車両るよう工夫した。安藤之弘社長は「使用過程の中古車の安心・安全を担保することが求められている」と狙いを説明した。

OBDによる車両のチェックは同業他社や小売業界にとっても今後の課題になりつつある。オークネットは、OBDによる機能診断を前提とした中古車保証商品を昨春に導入したが、こうした動きはごく一部にとどまる。さまざまな車種に対応するスキャンツールをそろえる必要がある上、チェックに手間がかかるからだ。とくに大量の車両を扱うAA会場のハードルは高い。

USSは、2016年秋から目視で見えない不具合の"見える化"への取り組みを強化し、正しく補修された修復歴車を集めたコーナーの出品検査にはすでにスキャンツールを用いている。今回はこうした取り組みをさらに進め、目視とOBDの両検査でAA取引の信頼性を保つ考えだ。

福祉車両ページ新設

「軽乗市場」17車種揃える

ネット・ジーエス

中古車個人間売買仲介のネット・ジーエス（大賀伸二社長、広島県福山市）は、新車の残価設定クレジット商品を扱うウェブサイト「軽乗（かるのり）市場」＝写真＝で福祉車両の販売を始めた。福祉車両の購入手段を多様化して消費者ニーズに応え、販売台数の上積みも狙う。

軽乗市場に「福祉車両館」のページを新設し、トヨタ自動車「シエンタ」や「タンク」などミニバン系のほか、ダイハツ工業「タント」、ホンダ「N-BOX」など軽自動車系の福祉車両など、まず17車種をそろえた。84カ月（7年）の残価設定クレジットで販売する。リースと異なり、契約内容に自動車検査（車検）を含まないため、月額費用は9千円～2万円ほどになる。また、契約から81カ月目には同社の個人間売買サイト「カースルー」に車両を出品でき、買い手がつけばそのまま売却が可能だ。これにより、在庫回転率が低く、残価設定が低いという福祉車両のデメリットを減らす。出品から3カ月経っても買い手がつかない場合は軽乗市場で下取りや買い取りなどを行う。納車やアフターサービスは同社の代理店などが手がける。

同社は軽乗市場を約2年半前に立ち上げ、現在は軽自動車のほか登録車（排気量660cc超）も扱う。大賀社長は今後も「月々の支払い総額を抑えたプランで消費者に訴求し、幅広い年齢層の獲得につなげていく」と語った。

2年連続のプラス

昨年の中古車登録・届け出

2018年（1～12月）の中古車登録・届け出台数は前年比0・2%増の695万1398台と2年連続で前年水準を超えた。登録車（排気量660cc超）の新車販売は前年割れだったが軽自動車は好調に推移し、中古車流通も堅調だった。

登録車は383万7482台（同0・7%減）、軽自動車は311万3916台（同1・4%増）だった。軽自動車の内訳は乗用車が244万9940台（同1・5%増）。貨物車が66万3976台（同1・1%増）。暦年ベースではプラスだったが、12月単月は23万4396台（前年同月比1・7%減）とマイナスに転じた。

暦年のブランド別では日産自動車とマツダのほか、商用車4社がプラス以外はマイナスは登録車で3ナスとなった1割以上伸び録車が伸び、ナスだった。

登録車と軽も伸び率が高

達成今期に

を1年前倒し

化した専などを積極が163（前期比37益が43億26・2%億860

0万円（同26・7%増）、純利益が29億1千万円（同28・7%増）と、過去最高益を更新した。店舗数は29店増えて104店舗となった。買い取り車両の直販体制を強化したことや、納車後の無料点検やオイル交換などで顧客との接触頻度を増やし、車検入庫率などを高めて利益を増やした。

今期は連結売上高で2150億円（同31・8%増）、営業利益57億円（同30・0%増）、経常利益55億円（同31・4%増）、純利益36億円（同23・7%増）を目指す。

中古車事業では整備拠点を併設した総合店を5店舗、SUV専門店「SUV LAND」を1店舗、輸入車専門店「UNIVERSE」を4店舗、買い取り専門店14店舗を新設する。新車ディーラーも4店舗出す。店舗数は前期末より26店増えて130店になる見通し。設備投資額は総額80億～100億円を見込む。

同社では昨年、元従業員による約1億6千万円の業務上横領が発覚した。同社は元従業員を懲戒解雇するとともに今月17日に再発防止策を公表。コンプライアンス（法令順守）教育を徹底するほか、社内監査体制を強化するなどして再発防止に努める。

長

ったが、芸能人のローラさんをイメージキャラクターに据えたことで認知度が高まり、関心を持ってくれる層が増えてきたと実感している。一方、買い手となる中古車事業者に対しては『ユーザーが昨日まで乗っていた新鮮な車がり、昨年末時点で会員の店舗数は7794拠点となった」

―ビジネスモデルの特徴は

「ユーザーが売りたい車両を当社独自のアプリで査定し、中古車事業者が競って買い取るという『CtoBオークションビジネス』を展開し思う。例えば、買い取り額はオークション形式のため透明性が担保できるし、競りあがれば買い取り価格も上がる。中古車事業者にとっては、広告費をかけずに新鮮な中古車を仕入れるチャンスが増える」

インタ

絡を入れてもらうようにしている。査定員はアプリに表示された査定方法に従い査定するが、査定内容によっては見分けられない場合もある。このような場合は該当箇所を写真撮影してもらい、本社の査定員が遠隔で査定をサポート

車登録・届出

登録車								軽自動車					総計（登録車＋軽自動車）		
貨物車		バス	その他	合計	前年同月	前年同月比	乗用車	貨物車	合計	前年同月	前年同月比		前年同月	前年同月比
小型	普通	小型												
[illegible]	9,850	7,840	166	1,905	197,966	190,474	▲9.5	979	906	1,079	979	99.6	199,944	191,940	▲9.0

2018年（1～12月）中古車登録・届出台数（登録車＋軽自動車）

車種	2018年	12月
普通乗用車	1,834,306（ 1.7）	147,833（ 1.0）
小型乗用車	1,523,537（▲4.1）	115,402（▲6.1）